

発表を通してのふりかえりと今後

雲仙市教育委員会生涯学習課
嘱託職員 岩永 和美

今回、県公民館大会の分科会での事例発表という貴重な体験をさせていただいたことに心から感謝申し上げます。

「家庭教育と公民館」という分科会での発表に、地域の中でご尽力いただいている「子育てサロン」AMJAMとの連携事業のことを話そうと考えてはいましたが、いざ原稿作成となると「AMJAM」の皆さんとの関わりが深かったが反省点も多い1年目、関わり方を変え、好評となった2年目のどちらをメインに持ってくるかと悩みました。

そこで、2年間の講座を企画・運営していく中で、私自身がどのような考えで動き、どのような気づきがあったかをふりかえり、1年目の計画・反省点を糧として、2年目の計画・今後への課題という1つ1つが大事なプロセスであったと気づき、流れを全て発表した方が分科会に参加された方の理解が得やすいのではないかとの思いから、経過に沿った発表とさせていただきました。

リハーサルの段階でも、質疑応答でどのような質問があるかの予想など、第1分科会を円滑に進めていくために、担当の方々と様々なことを話しながら一体感をもって本番へ望むことが出来ました。参加者の方からも、今後の活動へのヒントになりうる貴重な質問や感想をいただいたことで、達成感と共に、今後への意欲の高まりを感じ、充実した時間となりました。

これからも、時にはこれまでの講座を反省点まで含めてふりかえり、今後へ活かせるように努めていきたいと思えます。

公民館大会を通しての学び

対馬市しまづくり推進部しまの力創生課
(島おこし協働隊教育コーディネーター) 松葉 遥花

この度、第68回長崎県公民館大会西彼杵郡・西海市大会第1分科会において事例発表をさせていただきました。大変貴重な経験をさせていただき、心より感謝しております。

私たち教育コーディネーターが運営に携わる「こども対馬未来塾」は、子ども達の多様な価値観や幅広い視野の育成、郷土愛の向上、学習習慣の定着を促すことを目的とした対馬市の公営塾です。未来塾は、「夏休み子ども寺子屋」(夏休み期間に主に小学生を対象とした学習の場)、「学び舎」(年間を通じ、中高生を対象とした学習の場)の2つから構成されています。未来塾は地域の社会教育の拠点である公民館で開催し、地域の方、公民館職員、学校等の理解と協力を得ながら運営しています。未来塾は、学習習慣の定着を促すことも意図していますので、家庭教育支援の側面も持ち合わせています。

しかしながら、分科会で保護者との関わりの視点について発言をいただきました。これまで、保護者との情報共有や意見交換は十分とは言えず、この大会に参加して、家庭教育の主体者である保護者に対して視野を広げることが出来ました。大会後、「ながさきファミリープログラム」のファシリテーター養成講座に参加する機会に恵まれました。独身の私は、保護者の実際の気持ちはわかるようで実感を持ってない部分があり、講座を通じて、保護者の考えにより深く触れることが出来ました。大会の参加経験は、保護者との関係構築の上でとても活きています。今後も保護者にも寄り添いながら、未来塾の運営に努めたいと思います。



《学び舎 自学自習》



《寺子屋 大学生による勉強の見守り》

地域学校協働活動について

壱岐市渡良地区公民館
館長 長岡 信一

今回、時津町で開催された第68回長崎県公民館大会において、第2分科会「青少年教育と公民館」での事例発表をさせてもらいました。今回の発表での私の二つの思いについて説明します。

一つ目は、地区公民館が中心になって、周りの17の自治公民館を巻き込む形での取組を発表したつもりです。私は常々、県大会において、第5分科会「自治公民館」だけでなく、第1から第4分科会においても、二つの実践発表の内の一つは公設公民館の取組内容の発表でいいが、もう一つは、自治公民館の取組か自治公民館を巻き込んだ形での実践発表をしてほしいと言ってきました。それは、参加者の8割は、自治公民館関係者だからです。

今回、「地域学校協働活動と公民館」というテーマで発表しました。私は、小さな35世帯の自治公民館の館長で、しかも地区公民館長を委嘱されています。ですから、地区公民館（私）が窓口になって、17の自治公民館を取り込んだ実践発表だと考えています。

二つ目は、学校をプラットフォームにする考えでの取組だということです。人々が一番集まる場所である小学校を核として、コミュニティ・スクールの基盤活動である「地域学校協働活動」の取組を紹介したいという思いです。地域と学校が連携・協力して行事等を行うことにより、学校にとっても、地域にとっても有益な活動になると考えています。

私は、これからの自治公民館の活性化は、小学校を核とした活動、それに地域の色々な団体が関わる活動に求めるのが一番いい方法だと考えています。文部科学省も、学校には地域の活性化に貢献することを求めていますし、今後とも学校との連携を深めて、地域の活性化につながる活動を続けたいと思います。

公民館大会に参加して

諫早市高来西公民館
社会教育指導員 宮田 龍郎

6泊7日の通学合宿から、子どもたちと一緒に過ごせたこの貴重な体験を発表する機会をいただいたことに感謝いたします。

諫早市内でも幾つかの校区で実施されていますが、公民館主導でかつ長期間実施した自負と、それに挑戦した子ども達は誇りであり、それを知っていただくためにも、良かったと思っております。

また、通学合宿が地域の皆さんの支えと協力により実施できていること、公民館が地域コミュニティの核としての位置付けを求められていること等、高来西公民館講座を含めた取組の一端も紹介できました。

これまでも、県大会にはいろんな形で携わらせていただきましたが、参加者の皆さんの職種や立場等の違いにより、温度差を感じる時もありました。

それでも、発表への質疑や研究討議も含め、皆さんの熱い気持ちを感じることができ、さらに、各地の公民館等の取組などを聞き、新たな発見もありました。

また、発表原稿を作成するに際し、視点を変えて見えてきたことや反省点等、思わぬ発見もあり、これからの公民館活動に活かしていきたいと思っております。

最後に、開催地の西海市、長与町、時津町並びに長崎県の関係者の皆さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。



初めての五右衛門風呂に感激



布団運びはきつか～

地域の人権意識の向上を目指す公民館

島原市立森岳公民館
主事 湯田 誠一

今回、第68回長崎県公民館大会において、第3分科会「人権教育と公民館」での事例発表の機会をいただき、貴重な経験をさせていただいたことに対し、心から感謝申し上げます。

事例発表では、「地域の人権意識の向上を目指す公民館」というテーマで森岳公民館の取組として、「公民館講座を通じた人権学習」と「地域との連携」について、発表させていただきました。

正直なところ、人権教育という視点で公民館活動を考えたときに、公民館学級における講座を思い浮かべるものの、どのような発表内容とするか、なかなか整理が付きませんでした。私自身、改めて公民館で行う人権学習を進めるポイントである「人権意識を高める」「豊かな人間性を育てる」「人権が尊重された雰囲気や環境をつくる」という点を考えると、実は公民館で行う活動のほとんどが、「人権」と深い関わりを持っていることに気づかされました。

家庭教育学級の中で、大会発表時は実施予定として発表させていただいた「ながさきファミリープログラム」を、青少年健全育成協議会や管内の小中学校と連携し、10月23日に実施しました。アイスブレイクからはじまり、当初やや緊張気味であった参加者も次第に打ち解けた様子で、あっという間の90分であったとともに、正に人権が尊重された雰囲気や環境の中で実施できたことをご報告いたします。また、参加者からも「とてもいい雰囲気で過ごせた」「また参加したい」などの感想が多数で好評でした。今後も様々な内容を取り上げることで、人権意識の高揚を図って参りたいと考えています。

また、分科会での皆様の熱心な姿を目の当たりにして、指導助言の中で示された「生活するすべての人が居場所と出番、役割があって、誰からか頼られるまち」を実現するため、「つどう」「まなぶ」「むすぶ」機能を有する公民館が中心的役割を担えるよう、自身が決意するとともに再確認する場になったことに重ねて感謝申し上げます。

これからも、地域にとって一番身近で小さな拠点であり、活力ある公民館であり続けるよう、努めていきたいと思っております。



ながさきファミリープログラムの様子

長崎県公民館大会を振り返って

ボランティアグループ「子育て支援ママ・ほっと」
代表 迎 純子

この度、歴史ある長崎県公民館大会西彼杵郡・西海市大会第3分科会(人権教育と公民館)で事例発表をさせていただくという貴重な機会をいただき、大会関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

初めに市教育委員会の方からお話をいただいた時は、「私の取組みが人様に紹介できるのだろうか」や「取組内容は人権教育とは言えないのではないか」など様々な思いを抱きましたが、せっかくの機会でもありますし、私自身の学習のつもりでお引き受けすることにしました。

私たちのグループが実践する活動は、不安や悩みを抱えながら日々子育てに奮闘するお母さんたちに「ほっとできる空間」を提供するもので、そこに行けば“安心できる”、“笑顔になれる”場所を創るために「みんなで共感すること」「お互いを認め合うこと」を最も大切にしています。

人権社会と言いながら、どこか無機質で殺伐とした空気が漂う中で、お母さんたちに限らず、今私たちに一番必要なのはこの「共感」や「承認」を得られる場であり、それがあればみんながもっと暮らしやすく優しさいっぱい社会になるのではないかと改めて感じました。

ボランティアで取り組む私たちの活動は本当に微力ですが、活動の中で顔見知りになるお母さんや赤ちゃんの優しさ、純粹さに溢れる笑顔を原動力として、これからもできることをがんばっていきたいと思います。



「ママ・ほっと」活動中の様子

人と地域を育てる公（耕）民館

大村市教育委員会社会教育課
主事 伊東 智子

今回、第68回長崎県公民館大会西彼杵郡・西海市大会において、第4分科会「成人教育と公民館」での事例発表の機会をいただき、貴重な経験をさせていただいたことに心から感謝申し上げます。

発表するにあたり、社会教育に携わってまだ経験の浅い私に務まるだろうかとの不安がありました。これまで実践してきた本市の公民館活動の情報発信の場、また、参加された皆様との意見交換を通して、成人教育と公民館活動のあり方を考える良い機会と思い、「人と地域を育てる公（耕）民館を目指して」と題して、地域住民が“受講する側”から“支援する側”へと活躍の場の広がりを見せつつある講座や高齢者の生きがい・活躍の場づくり、学びの地域への還元につながっている講座の事例などを発表させていただきました。

発表事例は、数多くある本市の公民館講座の中で、受講者の主体的な学びを生み出している貴重な例に過ぎません。この大会をきっかけに成人教育と公民館活動のあり方を考えたとき、講座を単なる個人の学びに終わらせず、いかに学びを地域に生かしていくか、そしてまた、その地域での実践をいかに公民館に反映させるか、公民館を通じた学びの循環の仕組みづくりの難しさを改めて感じたところです。

自治公民館活動をされている方の参加が多かった事例発表後の研究討議では、各地域の公民館長の方から人口減少や少子高齢化、自治会加入者の減少など切実な悩みが聞かれました。しかし、人が少ないからこそ地域を巻き込むしかないという発想で、苦勞されながらも様々なアイデアを出し合い、日々地域に根差した公民館活動を実践されている様子に、皆様の地域に対する思いを感じ、刺激を受けました。

地域が抱える課題は多種多様ですが、今後は「つどう、まなぶ、むすぶ」という公民館の役割に加え、公民館が人づくり、地域づくりの拠点となり得るよう意識を高く持ち、時代のニーズに即した公民館活動を行っていきたいと思います。



DIY教室での交流会の様子

今後も「地域のプラットホーム」として

五島市本山地区公民館
主事 北川 美智子

第68回長崎県公民館大会西彼杵郡・西海市大会において、第4分科会「成人教育と公民館」での事例発表の機会をいただきました。主事3年目の私にこのような大役が務まるのだろうかと正直不安でしたが、本山地区公民館が長年続けている活動を皆様に紹介することができ、また事例発表という貴重な経験をさせていただいたことに心から感謝申し上げます。

事例発表では、「地域に根差した公民館活動」と題し、本山地区公民館が行っている成人教育の中から、自治公民館に出向いて開催している高齢者向け出前講座や地域の方の協力を得て開催する単発講座に重点を置いて発表させていただきました。公民館としては、どのようにしたら多くの方に学びの場を提供できるかが大きな課題です。本山地区公民館では老人会や地域ミニデイサービスと連携し、その活動拠点である自治公民館を学びの場とし、定例会など各団体の会員の方が集まる日に講座を開催し、学習の機会を増やす活動をしています。平成11年から実施しているこの活動を発表するにあたり、現状と課題を見つめ直す時間を持つことで新たな目標を立てることができましたことは、私にとって大きな収穫でした。

研究討議では、他地域の方々の取組をお聞きすることができました。自治体によって公民館の形態が違うため考え方も様々でしたが、どの地域も少子高齢化による悩みは同じで、いかにして地域住民を公民館活動に誘うか日々努力されている姿を私共も見習いたいと思いました。

大会テーマ「『つどい・まなび・むすぶ、活力ある公民館活動』～地域の拠点として、人をつなぐ公民館を目指して～」とあるように、今後も本山地区公民館が「いつでも、どこでも、誰とでも、集い学ぶ事ができる“地域のプラットホーム”」となるよう、地域の皆さんと共に特色ある公民館運営と活性を図っていきたいと思います。



スポーツ吹き矢体験



五島の民話講座

公立公民館と町立公民館のつながり

長崎市北公民館
館長 山下 幸子

このたび時津町において開催されました第68回長崎県公民館大会西彼杵郡・西海市大会において、北公民館区内の川平町公民館での取組内容について、川平町自治会会長の尾崎恒夫様と共に事例発表をさせていただきました。

北公民館では、館区内の町立公民館等が実施する自主公民館講座の開設を支援することにより、地域の課題解決及び町内の親睦を図り、住みよいまちづくりを目指すことを目的に「北公民館区町立公民館講座助成制度」を設けております。

この助成制度を活用して開催された講座について、内容のご相談等をお受けしたり、笑顔があふれる写真を添付された報告書を拝見したりしていますが、今回の発表を機に、川平町自治会の全面的なご協力を賜り、助成制度の対象となっている講座だけでなく、自治会独自で取り組んでおられる高齢者サロンにも参加させていただきました。

参加される方は講座を楽しみに早くから公民館に集まり、受講後はお茶を飲みながら互いの話をし、後片付けを全員で手伝う姿を拝見し、町立公民館がまさに「つどう」「まなぶ」「むすぶ」の公民館活動を実践されており、地域内の人々の心の温かさや地域への熱い思いを感じました。

今回の事例発表を通じて、これまで公立公民館として町立公民館活動への関わりが薄かったことを反省し、今後、共に歩むにはどうあるべきなのかを改めて考える機会を与えていただきました。

当日は、大会会場からも自治会運営や町立公民館の活動に関するご意見やお悩みの声をお聞きしました。すぐに解決できる策を見つけることは難しいですが、その地域の事情に応じ、住民の方のご協力をいただきながら、できる活動を続けることから始めていけたらと思えます。

最後になりましたが、お忙しい中、川平町自治会の尾崎会長には壇上に同席し、参加者からの様々なご意見やご質問にも丁寧に対応していただきましたことに心から感謝申し上げますとともに、同じ舞台で発表、司会、指導助言などお世話をいただきました皆様、ご意見くださいました皆様にも厚く御礼申し上げます。

公民館大会に参加して

南島原市加津佐町本岩戸自治会
会員 綾部 イツエ

平成30年10月11日(木)～12日(金)に西彼杵郡時津町で開催された第68回長崎県公民館大会西彼杵郡・西海市大会に参加し、第5分科会「自治公民館活動」で私達の取り組んでいる実践を報告しました。

平成25年3月に、何の制限もなく無理なく楽しく集う会として「あつまってみゆう会」を発起し、同感した人達で会を開きました。平成26年4月から「あじさい会」として自治会の皆さんが集い・学び・交流が出来る場として、現在に至るまでの経緯や、私自身、専業主婦になって、近所付き合いが薄れてきている事に気づき、何か手伝いをしたいと思ったのがきっかけで、世代を超えた集いや公民館の役割や必要性につながったことについての事例を発表しました。

最初に行った「花見会」、島原半島や歴史を巡る旅「ジオパークめぐり」、自治会を巻き込んだ「夏休みラジオ体操」、自治会・子ども会を含めた「合同交流会」、会員への思いを贈る「新年のあいさつ(感謝状贈呈)」、これまでお世話になった方々との「ぜんざい会」、現在では「地域の活性化」「心と身体の健康維持」を目標に、各種出前講座を活用した「自主防災活動」や「自己啓発活動」について説明しました。仲間同士の絆が深まり、公民館は気軽に近くで集える場であることが、少しでも皆様の参考になりましたら幸いです。楽しい発表と貴重な時間をいただきありがとうございました。



《事例発表の様子 1》



《事例発表の様子 2》